

令和4年度

校長室だより4月号 No.1

宝達志水町立押水第一小学校 R4.4.14

ご入学・ご進級おめでとうございます

校庭の桜が開花し始めた4月5日、10名の新1年生を迎え、令和4年度の押水第一小学校が始まりました。お子様のご入学・ご進級、誠におめでとうございます。全校児童61名で心新たにスタートいたします。

今年度より、押水第一小学校の校長を務めさせていただきます、基村俊成(きむら としなり)と申します。どうぞよろしくお願ひします。松本猛前校長と教職員、保護者、地域の皆様に築き上げてきた本校の豊かな教育活動を継承しながら、新校長としてこれをさらに発展させていく重責に、改めて身の引き締まる思いです。

1人1台端末に象徴されるGIGAスクール構想をはじめ、学校現場には様々な教育改革にかかわる新たな取り組みが求められています。一方、時代が変わっても決して見失ってはいけない大切な価値や学びもあります。そのような学校教育における「不易」と「流行」をしっかりと見極めながら、本校児童の健やかな成長を第一に願ひ、学校教育目標

(次頁学校経営計画参照)の実現に向け、全職員で誠心誠意取り組んでまいります。

本年度も本校教育活動への保護者・地域の皆様の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



【令和4年度職員組織】よろしくお願ひします

校長	基村 俊成	富来小学校より	すみれ担任	松田 和佳	本校7年目
教頭	中川 知成	緑小学校より	ひまわり担任	東 沙苗	相見小学校より
1年担任	九笹 裕美	本校6年目	級 外	大岡 敏幸	本校3年目
2年担任	弘灰みなみ	本校3年目	級 外	竹内 弘司	羽咋中学校より
3年担任	川畑 里美	宝達小学校より	養護教諭	山崎 千尋	本校3年目
4年担任	松本 栞	本校3年目	臨任事務	禧美 和子	本校3年目
5年担任	茶木 聡美	本校5年目	支援員	南谷 啓子	宝達小学校より
6年担任	仲島 健太	本校5年目	スクールサポート スタッフ	小林 陽子	本校2年目
通級指導	久保 千秋	本校2年目	用務員	堀 千恵子	本校5年目

令和4年度 学校経営方針

〔校 訓〕 強く 正しく 美しく

〔学校教育目標〕 自立 責任 感動・感謝

〔めざす児童像〕 考える 助け合う 思いやる子

〔今年度の重点目標〕

＜重点1＞確かな学力の育成

- ・ 学習ルールやスキルを徹底する。
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」定着に向けた授業の改善をする。
- ・ 学力向上マップの共通理解と活用を図る。
- ・ 補充学習・家庭学習の充実・徹底をする。
- ・ 生徒指導の3機能（共感的理解・自己決定・自己存在感）を生かした学習活動の推進をする。
- ・ 新学習指導要領完全実施に基づいた指導を行う。

＜重点2＞豊かな心の育成

- ・ 道徳科の充実を図る。
- ・ 互いの違いを認めながら他者と協働できる児童の育成をする。
- ・ 全教育活動においてコミュニケーションの方法や対人関係の構築の仕方を体得できる指導を行う。
- ・ 児童が感動できる体験活動を計画的に行う。

＜重点3＞チーム学校力の充実

- ・ 職員の専門性を伸ばすことのできる職場づくりを行う。（OJT メンター）
- ・ 教職員が役割と責任を自覚し、職責を完結できる校務運営を行う。
- ・ 専門性を持つ外部人材の活用を図る。
- ・ 機能的なスタッフ会議の運営を行う。（短時間で効率的に）

＜重点4＞家庭・地域との連携

- ・ 学校運営について家庭・地域からの情報を真摯に受け止め、学校運営に生かす。
- ・ 学校の運営状況を各種会議やホームページ、学校だより、学級だより等で伝え、説明責任を果たす。
- ・ 地域や関係機関の人材を含めた学習資源を有効に活用し、教育活動を行う。

＜重点5＞場に応じた表現力（パフォーマンス力）

- ・ 学習内容を発表することを前提とした授業づくりをする。
- ・ 全体の場合、保護者、地域の場合で表現する場を意図的に設ける。
- ・ 相手意識を持った表現活動ができるような取り組み行う。

＜重点6＞安心・安全な学校づくり

- ・ 教職員の危機管理意識を高める。
- ・ 児童の情報共有を密にして、いじめ・不登校等の未然防止を図る。
- ・ 家庭・地域との協働しながら、学校における「交通安全」「災害安全」「生活安全」を確立する。

＜重点7＞若手職員の指導力向上

- ・ 計画的な校内 OJT と日常的なアドバイスで指導力の向上を図る。
- ・ 若手とベテランのバディシステムによる育成を進める。



あいさつ運動・交通安全指導 ありがとうございます

4月5日の新年度スタートから、学校では「あいさつ運動」が始まりました。また、保護者・地域の皆様には、あわせて「交通安全指導」も行っていていただいております。大変たくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございます。子どもたちは、大勢の保護者や地域の方に見守られているという思いを新たに、通学路での安心と地域のあたたかさを改めて感じたものと思います。また、学校の児童玄関前では、全校児童が交代で「あいさつ運動」を実施していますが、保護者の皆様の協力もあって、あいさつがより一層活性化されたのではないかと思います。本当にありがとうございました。



さて、あいさつが大事であることは言うまでもないことですが、どうしてあいさつをすることが大事なのでしょう？ あいさつをすることが当たり前過ぎて、そのようなことを普段考えることはあまりないと思うのですが、以前ある講演で次のようなお話を聞きましたので以下に紹介したいと思います。

この地球上には、およそ6000の言語があるとされています。そしてその6000の言語すべてに「あいさつ」の言葉があります。考えてみれば、これは不思議なことではありませんか？ その6000の言語を話す人々が別に相談して決めたわけでもないのに、どの言葉にも必ず「あいさつ」があります。つまり、言葉ができた昔から「あいさつ」が大事であるということ、人間は感じ取っていたということ、では「あいさつ」には、どんな意味があるのでしょうか？ 私の好きな詩にこんな言葉があります。

『朝がくると』 まど みちお

朝がくると とび起きて
ぼくが作ったものでもない
水道で 顔をあらうと
ぼくが作ったものでもない
洋服を きて
ぼくが作ったものでもない
ごはんを むしゃむしゃたべる
それから ぼくが作ったものでもない
本やノート
ぼくが作ったものでもない
ランドセルに つめて
せなかに しまって
さて ぼくが作ったものでもない
靴を はくと
たったか たったか でかけていく
ぼくが作ったものでもない
道路を
ぼくが作ったものでもない
学校へと
ああ なんのために
いまに おとなになったら
ぼくだって ぼくだって
なにかを 作ることが
できるようになるために

人間は、一人で生きていくことはできません。必ずだれかと関わっています。「自分は一人だけで生きてみせる」と思ったとしても、詩の言葉にあるように、自分の身の周りにある食べ物や日用品などは、どれも誰かが作ってくれたからあるのであって、そこにはやはり関わりがあるのです。人間は、他人との関わりから逃れることはできないし、逆のことを言えば、他人との関わりが豊かになればなるほど、人生もより豊かになっていくのです。

そして、その関わりを作ってくれるきっかけとなるものこそ、あいさつなのではないでしょうか。あいさつをする人の周りには、自然に人と響き合いやすい雰囲気生まれ、空気がやわらかく変わっていきます。すると、人との意思の疎通が図りやすくなり、人を受け入れ、人からも受け入れられやすい素地、つまり関わりの素地ができていくのです。あいさつは、すればするほど自分を取り巻く空気がよい方向へと変わっていきます。その積み重ねが人生の展望を明るくさせ、生きることへの希望へとつながっていくと思うのです。(以上講演内容の概略)

入学式・始業式の翌6日より、あいさつ運動・交通安全指導で、保護者・地域の方々が立って下さっている場所を数ヶ所回らせていただきました。

保護者・地域の方々の子どもたちへのあいさつ・声かけの様子がとてもあたたかく、まさに関わりの豊かな地域だなと感じました。

今後とも、よろしくお祈りいたします。

4月はじめの学校の様子

入学式・10名の新入生



大きな声で立派な返事



朝のあいさつ運動



ボランティアさんとの対面式



児童会任命式



全校児童へのあいさつ



学校支援ボランティア「思いやり隊」の会員を募集します！

約20年前に発足し、長い間本校の教育活動にご理解・ご支援を頂いている学校支援ボランティア思いやり隊の会員数が、年々減少しています。子どもたちが安全に楽しく学校生活を送れるように、家庭と地域と学校が一体となって、未来を担う子どもたちのために、「できることを、できるときに、できる場所で」の精神で、是非ご協力をお願いいたします。会員になって頂ける方は、学校までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

押水第一小学校 TEL 28-2129

